

栃木県埋蔵文化財センターだより

発行 平成25年12月26日
栃木県教育委員会
宇都宮市堀田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (公財)とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>

2013
12月
やま
かい
どう



CONTENTS

- 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から
西高椅遺跡(小山市)
横倉遺跡・横倉戸館古墳群(小山市)
- 市町教育委員会が実施した発掘調査から
西刑部西原遺跡(宇都宮市) 道金林遺跡(下野市)
- 埋蔵文化財センター普及事業の紹介
縄文時代の土偶作り
埋蔵文化財センター 一般公開
埋蔵文化財活用のための基礎講座
- 特集 縄文土器を作る
- ロビー展示から

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

にしたかはし 1. 西高椅遺跡(小山市) -古墳時代の有力者の墓域を調査-

埋蔵文化財センターでは、小山市からの委託を受けて、小山市大字高椅に所在する西高椅遺跡の発掘調査を2013(平成25)年5月から行っています。旧石器時代の礫群(1ヶ所)と17基の古墳等が見つかっています。9月28日には現地説明会を開催し、小山市民の皆様をはじめとして多くの方々に発掘調査現場を見学していただきました。



西高椅遺跡の位置



現地説明会の様子



第21号墳全景



第29号墳全景



第29号墳の周溝から出土した土器



遺跡の中心になるのは西高椅古墳群で、今年度の調査区には古墳時代中期(今から1,550年前ころ)の帆立貝形古墳1基・円墳17基と、古墳5基の周溝(ほり)の一部が確認されています。

ここで紹介する29号墳は、墳丘の直径が約10mの小さな円墳です。古墳の盛り土や、死者を葬った施設は削られて消滅しています。浅い谷に造られているので、周溝が速く埋まったらしく、その中に土器がよく残っていました。東側の周溝には須恵器の杯、蓋、甕が一つずつあり、完全な形に復元できました。甕は、現在のお銚子や急須のように、飲み物を注ぐための器です。これらの土器の上を覆うように、非常に細かく割れた甕が散らばっています。お葬式の後で甕を打ち割ったのかもしれません。西側の周溝の底には、土師器の杯が2個並べて置かれていました。

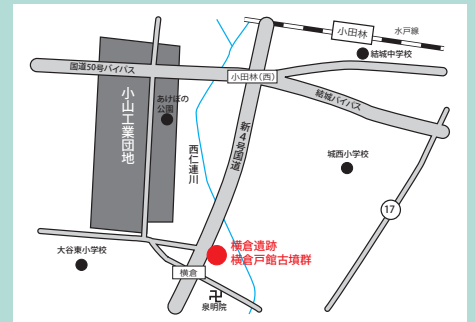
2. 横倉遺跡・横倉戸館古墳群（小山市）－小山市内でとりわけ古い古墳を調査－

この遺跡は小山市の南東、新4号国道と小山環状線が交差するところで、西仁連川を望む台地の縁から谷へ向かう斜面にかけてが調査範囲です。県道の整備に先立って現在発掘調査を行っています。

横倉遺跡は、かつて新4号国道がつくられる際に発掘調査が行われ、中世の遺構群が確認されました。また調査区内及び周辺は横倉戸館古墳群として知られています。今回の調査区と隣接するところにある戸館1号墳は小山市の指定史跡です。昨年度埋蔵文化財センターで一部調査を行い、5世紀前半の円墳であることが推定されました。これらに隣接する今回の調査でも、注目すべき成果があがりつつあります。

第1の成果は、やや大きな規模の方墳が確認されたことです。現段階では、周溝のコーナー1箇所のみ確認であり、全体の大きさは不明ですが、一辺の長さ（溝外側間）が20m以上となる可能性もあります。周溝は幅約3～4m、深さ約1.3m、またさほど高くはないものの、墳丘の高まりも認められます。

この古墳の周溝内から完全な形の土器2個体が近い位置で出土しました。この2個体をはじめ、周溝内から出土した土器は、古墳時代前期の土器が多く、この古墳の時期を示しています。また隣接・重複するところに前期の方形周溝墓や後期の円墳も見つかっており、前期から後期にわたる古墳群であることが明らかとなってきました。



横倉遺跡・横倉古墳群の位置



方墳全景（北から）



方墳土器出土状況（北東から）



方墳土器出土状況（北西から）

第2の成果は、中世から近世にわたる遺構群の確認です。特に調査をはじめの前から認められた土塁が、壕を伴うものであることが分かりました。この土塁は、これまで「横倉館」にかかわる土塁と推定されていますが、出土遺物などから、館跡と判断することは現段階では難しいようです。他にも地下式抗等の中世の遺構や近世の遺物の出土が認められています。

第3の成果は、縄文時代集落跡の確認です。調査当初より、調査



縄文時代後期の住居跡

区全体から多量の土器が出土していましたが、家の跡などの遺構は明確ではありませんでした。その後の調査で、谷へ向かう斜面に後期前半のやや大きな住居跡が、また台地平坦面でも後期初頭の住居跡が見つかりました。他にも早期や前期の土器も出土しており、縄文時代の幾つかの時期において、この地に人々の活動がなされていたことを示しています。



土塁・壕跡調査状況（南東から）

市町教育委員会が実施した発掘調査から

にしおさか べ にしはら 3. 西刑部西原遺跡（宇都宮市）－古墳～平安時代の集落の調査－

西刑部西原遺跡（F区）は宇都宮市インターパーク4丁目2-4に所在します。調査は平成25年8月12日から同年10月7日まで行い、古墳時代から平安時代までの集落の跡を確認しました。調査の結果、竪穴住居跡14軒、掘立柱建物跡3棟、土坑18基、土坑墓1基、井戸跡1基、円形周溝遺構3基、溝跡1条、小穴などの遺構を確認し、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、鉄製の鎌・刀子・鎌などが出土しました。竪穴住居跡は建て替え、重複が認められます。これらの竪穴住居跡の多くは調査区の中央より北側で確認されました。

掘立柱建物跡は3棟を確認しましたが、それ以外にも多数



西刑部西原遺跡の位置



竪穴住居跡（上空から）



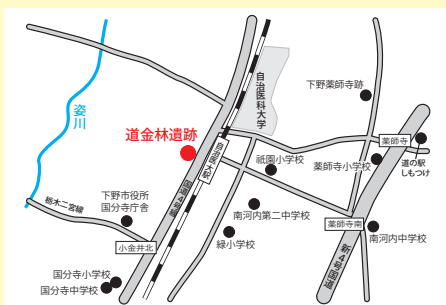
調査区全景（上空から）

の小穴があり、多くの建物の存在が予想されます。土坑は径1m前後の円形の土坑を多く確認し、土坑墓はローム塊を含んだ黒色土で埋められ、完形の須恵器坏が出土しました。

どうきんりん 4. 道金林遺跡（下野市）－縄文時代の狩り場の調査－

この遺跡はJR自治医大駅西側の台地上にあり、市庁舎の建設に伴い発掘調査を実施しました。その結果、奈良時代初め（700年代頃）を中心として、縄文時代前期～江戸時代（約6,000～200年前）の遺構と遺物から以下のようなことがわかりました。

まず、最初にこの土地を利用したのは縄文時代の人々です。当時、この一帯は雑木林か草原のような状況だったと考えられ、彼らはここに住まず、落とし穴を掘り狩猟場としたようです。次に、奈良時代初めのころの人々がムラとして利用します。竪穴住居跡の数から小さなムラで、あまり長く人が住んだとは考えられません。その後、鎌倉・室町時代（700～800年前）の人々が井戸を掘り短期間利用したようです。江戸時代には複数の溝が掘られました。水を流した痕跡がないため、溝は地境のために掘られたものかもしれません。



道金林遺跡の位置



縄文時代の落とし穴



奈良時代の竪穴住居跡

埋蔵文化財センター普及事業の紹介

◇縄文時代の土偶作り◇



まず初めに、縄文時代の人々が使った土器や石器を見ながら当時の生活についてのお話です。とくに今回のメインである土偶や耳飾りなど、これほど間近で見る機会はほとんどの人が初めてだったようです。



土偶は、粘土の塊から直接形を作り出すもののほかに、頭・胴体・手足などの部品を別々に作って繋ぎ合わせて作ったものもあります。ほとんどの土偶が破壊されていることから、壊すことを考えた作り方だとも言われています。



夏休みの始まりの平成25年7月27日、栃木県総合教育センターで、学びの杜の公開講座「縄文時代の土偶・耳飾り作り」がおこなわれました。

親子合わせて18名の方が参加されました。粘土を使って縄文時代の土偶や耳飾り作りに挑戦です。これらはどのように、そして何のために作られたのでしょうか。



今回は写真だけでなく、全体の形が分かりやすいように「製作見本」を用意しました。



独特な表情とポーズが印象的な「うづくまる土偶」

土偶作りに集中していると、時間のたつのもあっという間です。形を整えたのち、縄文を付けたり、竹べらで文様を描いて製作は終了です。

※なお、希望者には作品を焼き上げて、後日お渡ししました。

土偶は日本列島の縄文時代だけに見られる土の造形です。

土偶には乳房や妊娠した腹部を表現したものが多く、「女神」や「女性の司祭者」を表しているとする説があります。しかし本当の答えは分かりません。

◇埋蔵文化財センター 一般公開◇

7月28日(日)から8月3日(土)の1週間、埋蔵文化財センターの一般公開を行いました。埋蔵文化財センターの仕事を理解していただくだけでなく、太古の人びとの生活を肌で感じる土偶作りや弓矢体験のコーナーを設けました。今年は404人の参加がありました。

土器・土偶作り

速乾性の“おがくず粘土”を用い、縄文土器や土偶を作りました。出土した土偶からとった型を用い、その型におがくず粘土を入れれば、本物そっくりの土偶ができます。腕に自信のある人は、紙コップを芯として、“おがくず粘土”で小さな縄文土器を作りました。



たくほん 拓本体験

考古学では、土器の文様を伝えるために、専用の墨で和紙に文様を写し取る“拓本”の技術を使います。蓮の花や葡萄唐草を表した奈良時代の国分寺の軒先の瓦、あるいは縄文土器の文様の拓本を採っていただきました。作品はお持ち帰りです。



弓矢体験

縄文時代には、弓矢でシカやイノシシを捕って、食料としていました。段ボールで作った獣を的にして、手作りの弓で矢を射ます。空を滑空するムササビを射た子どもには、管玉の景品がプレゼントされました。



◇埋蔵文化財活用のための基礎講座◇

平成25年8月20日から22日の3日間、教職員や市町の生涯学習担当者を対象に「埋蔵文化財活用のための基礎講座」を実施しました。今年度は「概説・講義の日」、「実技の日」、「考古学概説の日」と分け、選択しやすいよう心がけました。詳しい内容は以下のとおりです。

第一日 8月20日(火) 埋蔵文化財の活用

午前 開講式

講義1「埋蔵文化財センターについて」

実習1「センター施設見学」

講義2「授業などで土器や石器を活用するには」

午後 講義3「学校における埋蔵文化財の活用」

第二日 8月21日(水) 実技・史跡見学

午前 実習2「土器・土偶づくり」

午後 実習3「史跡及び遺跡見学・小山方面」

第三日 8月22日(木) 時代別考古学概説

午前 講義4「遺跡から見る栃木の旧石器時代」

講義5「遺跡から見る栃木の縄文時代」

講義6「遺跡から見る栃木の弥生時代」

午後 講義7「遺跡から見る栃木の古墳時代」

講義8「遺跡から見る栃木の奈良・平安時代」

意見交換

閉講式

※なお、今回の実習で製作した縄文土器・土偶等の作品は、後に野焼きして、受講者にお渡ししました。



小学校や高等学校から9名の先生方が受講



縄文時代の布網み技術体験の説明



実物を見ながら製作した縄文土器

特集 縄文土器 を作る

私たち埋蔵文化財センターでは学校や博物館などに出向いて「縄文土器作り」を行っています。一見難しそうな縄文土器作りですが。ちょっとしたポイントを押さえれば、驚くほど本物そっくりな土器を作ることができます。ここでは、縄文土器の作り方のコツを順を追って説明してみたいと思います。

1 粘土をつくる



縄文土器を作るには、陶芸用の粘土(できれば瓦を焼く粘土)に川砂を30%程度混ぜるとよいでしょう。



縄文土器は、砂や鉱物を混ぜた粘土で作られました。混ぜ物には植物繊維や獣毛もあり、地域や時期ごとに特徴があります。縄文時代の人びとは、焼くときに割れを防ぐだけでなく、粘土にもこだわりを持っていたようです。

2 形作り - まずは底から -

底は球状に丸めた粘土を、押しつぶし、円盤のような形に整えます。



モデルの土器はこれだ!



埋文センターの土器作りは「本物の土器」を間近に見ながら作ることが最大のメリットです。

この土器は、今から4500年位前のものです。

厚みや高さを確認しながら、一段ずつ丁寧に粘土を積み上げていきます。



粘土を紐状にします。底部の径にあわせて紐をちぎり、輪にして積んでいきます。これを「輪積み法」といいます。



内外両面のつなぎ目を消すことで、しっかり密着させます。乾きすぎは禁物です、必要に応じて水を付け、接着しやすくします。



3 形を整える - 飾り付け前の準備 -

粘土の積み上げが終了したら、まだ柔らかいうちに、もう一度全体のバランスを整えます。

篋くわや貝殻かいがらを使って表面を滑らかに仕上げます。



二枚貝は表面をきれいに整えるのに最適です。

4 縄文を付ける



滑らかになった土器の表面に撚り紐なめひもを転がして縄文を付けます。口の近くは横に、胴部から底にかけては縦に縄を転がします。

撚り紐は日本在来の植物のカラムシの繊維で復元しました。



5 粘土紐を貼る 文様を付ける



次に粘土紐を貼り付けます。接着面はあらかじめ水で濡らします。

渦巻きと窓枠を組み合わせたような文様を作ります。



細い竹の棒を使って、線を引きます。棒を寝かせて線を引きるときれいに仕上がります。

6 仕上げ



最後に土器の内面を貝殻かいがらまた滑らかな小石で念入りに磨きます。水漏れを防ぐための重要な作業です。

7 完成

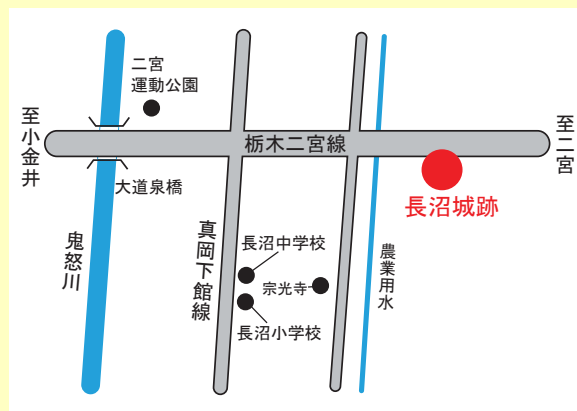


ながめま 関東の名族、長沼氏の居城 — 長沼城跡 — ながめまじょうあと

真岡市長沼地内にある長沼城跡は、鬼怒川の東側の微高地上に立地しています。

鎌倉時代初めに長沼宗政が築いたと伝えられる長沼城は、地名（小字名）などから、南北約200mの範囲が、その城跡と推定されていました。その北部に県道栃木二宮線の建設が予定され、平成20年度に事前の発掘調査を行いました。

長沼氏は、鎌倉時代の有力御家人で、室町時代には「関東八屋形」と呼ばれる有力な家柄に数えられました。



長沼城跡の位置

今回の発掘で、鎌倉時代から室町時代前半（800～500年前）の溝跡、井戸、柵跡を調査しました。鎌倉時代に「館」が築かれ、室町時代に入ると「城」となったことが確認できました。



展示の様子



出土した陶磁器

出土した陶磁器のなかには、中国（宋～明）から渡来した磁器や尾張瀬戸産（現在の愛知県）の陶器があります。土器も、地元産のものだけではなく、京都周辺で用いられる皿が目立ちました。名族長沼氏の城館跡にふさわしく、高級な焼き物を用い、また京都周辺との交流を持っていたことが判りました。



在地の土器と京都系土器